

2019年最後の月一です。

恒例の今年の一文字は「令」。流行語大賞は台風15号・19号が到来の最中、日本中を沸かせたラグビージャパンチームのスローガン「ONE TEAM(ワンチーム)」に輝きました。ノーベル化学賞の吉野彰氏が表彰式。等々、一年を振り返るイベントや来年開催の東京オリンピック会場の新国立競技場の竣工式など、来る年の準備のニュースが流れはじめると何となく気忙しくなりますね。



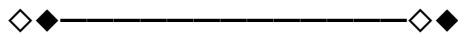
今年最後は「私の愛読書」紹介します。

<月刊・みんなねっと>と<こころの元気+>の2冊です。

10年余り前に家族会で知り、今や毎月配達されてくると何時も持ち歩くバッグに入れておき、乗物や病院の待ち時間の相棒です。月々の「特集」や「連載」は少しの時間に読めること。薄いページ数の中には家族や当事者・医療者・支援者の実際にあった共感できること。時には、この冊子にご登場された先生方のご講演を聴きに参加もします。家族会にもお越しいただき、薬や治療研究について、詳しくお話しを伺い希望や未来を感じる事が出来ました。



何よりも理解し辛い精神世界の様々な事を 私に少しずつ教え、支えてくれて来ました。



「みんなねっとフォーラム2020～精神科医療をよりよくするために～」



精神保健福祉法は、2013(平成25)年に改正され、翌年4月の施行後3年を目途として、医療保護入院の手続のあり方、退院促進措置のあり方、入院中の処遇、退院等に関する意思決定等の支援のあり方、長期入院患者の地域移行に向けた精神科医療のあり方などを見直すことが課題とされています。その後、身体拘束中の患者の死亡事件や身体拘束そのものが激増していること、未だに解消できずにいる長期入院や、家族頼みの入退院など、精神科医療には課題が山積しています。このような状況を放置せず、よりよい精神科医療を獲得していくために何をすべきか、医療関係者はもとより、私たち当事者・家族をはじめ保健・福祉関係者や行政、障害者雇用に取り組む企業など、多くの関係者が共有すべきこととして、考えていく必要があります。

日時：2020年2月21日(金) 午前10時～午後16時

会場：としま区民センター：多目的ホール(池袋駅東口 徒歩5分)

参加費：みんなねっと賛助会員は無料(非会員は500円)

定員：400名

主催：公益社団法人全国精神保健福祉会連合会(みんなねっと)

協賛：一般社団法人日本うつ病センター(JDC)、認定NPO法人地域精神保健福祉機構(コンボ)
NPO法人全国精神障害者地域生活支援協議会(あみ)

◆講演 「精神保健医療福祉施策の近未来展望」

山之内芳雄(国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所所長補佐/精神医療政策研究部部長
課題となっている精神保健福祉法の改正をステップに、さらなる近未来を展望します)

◆シンポジウム・テーマ『精神科医療をよりよくするために～私たちは何をすべきか』

座長兼総括：野村忠良(みんなねっと理事・政策委員会書記長)

シンポジスト：

○「問題だらけの精神科医療～出口はあるのか?」 佐藤光展(ジャーナリスト・元読売新聞記者)

○「精神保健福祉法の改正に向けて～ここを変えるべき」

野林信行(九州弁護士会連合会精神保健に関する連絡協議会委員長・弁護士)

○『『病院から地域へ』の加速、そして地域から病院への移行を阻みたい」

伊沢雄一(全国精神障害者地域生活支援協議会あみ常任理事)

○「これからの精神科病院はどうあるべきか～そのためにできること」 松原三郎(松原病院院長・石川県)

総括「私たちは何をすべきか」 野村忠良(みんなねっと理事・政策委員会書記長)

【申し込み方法】

① 申込書をご利用ください；みんなねっとホームページの開催案内に申込書が付属しています

<http://u0u0.net/XN8p>

② 下記サイト(peatix)からも申し込みできます <https://minnanetforum2020.peatix.com/>